

210213 福島県沖 M7.1 (7.3) の前兆について その2

2月13日(土)の午後11時すぎに発生した福島県沖 M7.1 (7.3) の大地震は広範囲にかなり大きな被害をもたらしており、大地震の恐ろしさを痛感します。

ここに被害にあわれた方がたには あらためてお見舞い申し上げます。

今回の地震について先日も逆ラジオによる、ゆれくるんの予知の経過をお知らせにアップしましたが 再度、まとめたものを掲載します。

今回の福島県沖 M7.1 (7.3) の大地震の前兆は 主に以下の3点になります。

1、岩手一関の90日間データ

★★逆ラジオ通信★★ No.06W-210210 日号では以下のように書いています

>>【岩手一関】では 1/25 に約 62,700 と再び増加し、その後減少しています。1/6 をピークとする山型データが収束傾向になっているように思われます。引き続き今後の動きを注視します。【岩手一関】の90日間データでは あきらかに大きな山が収束にむかっておりこの先、福島～岩手沖で M5 クラスの地震の可能性がります。

予測としては 「2/10+10 福島～岩手沖周辺 100km 範囲 M4.5±0.5 程度」と考えます。ただし 東北には M4 クラスの地震が多発していますので 【岩手一関】のデータの収束後に「12/21 青森県東方沖 M6.3」と同規模の地震発生も考えられますのでお気を付けください。

ここでは >岩手一関の90日間データではあきらかに大きな山が収束にむかっており

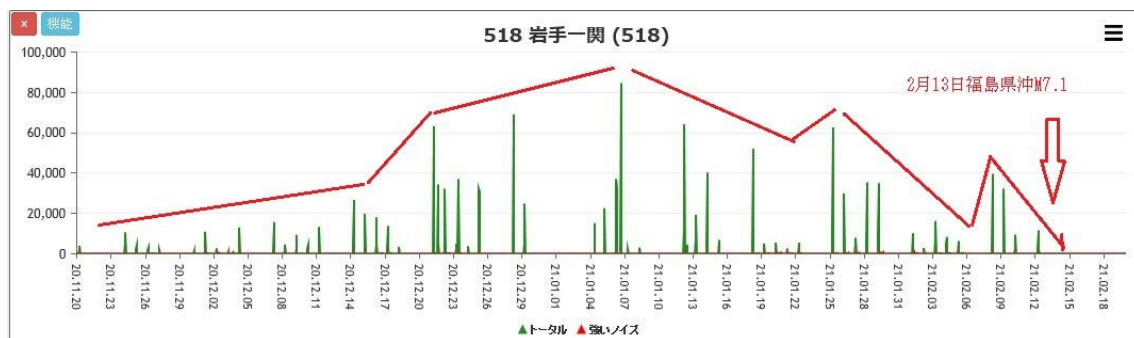
>東北には M4 クラスの地震が多発していますので 【岩手一関】のデータの収束後に「12/21 青森県東方沖 M6.3」と同規模の地震発生も考えられます」と言っています。

以下が2月7日までの岩手一関の90日間データで90日間=3か月をかけて大きな山が収束してきて、少しリバウンドの後 M7.1 が発生しています。

2月7日まで90日間の岩手県一関のデータ



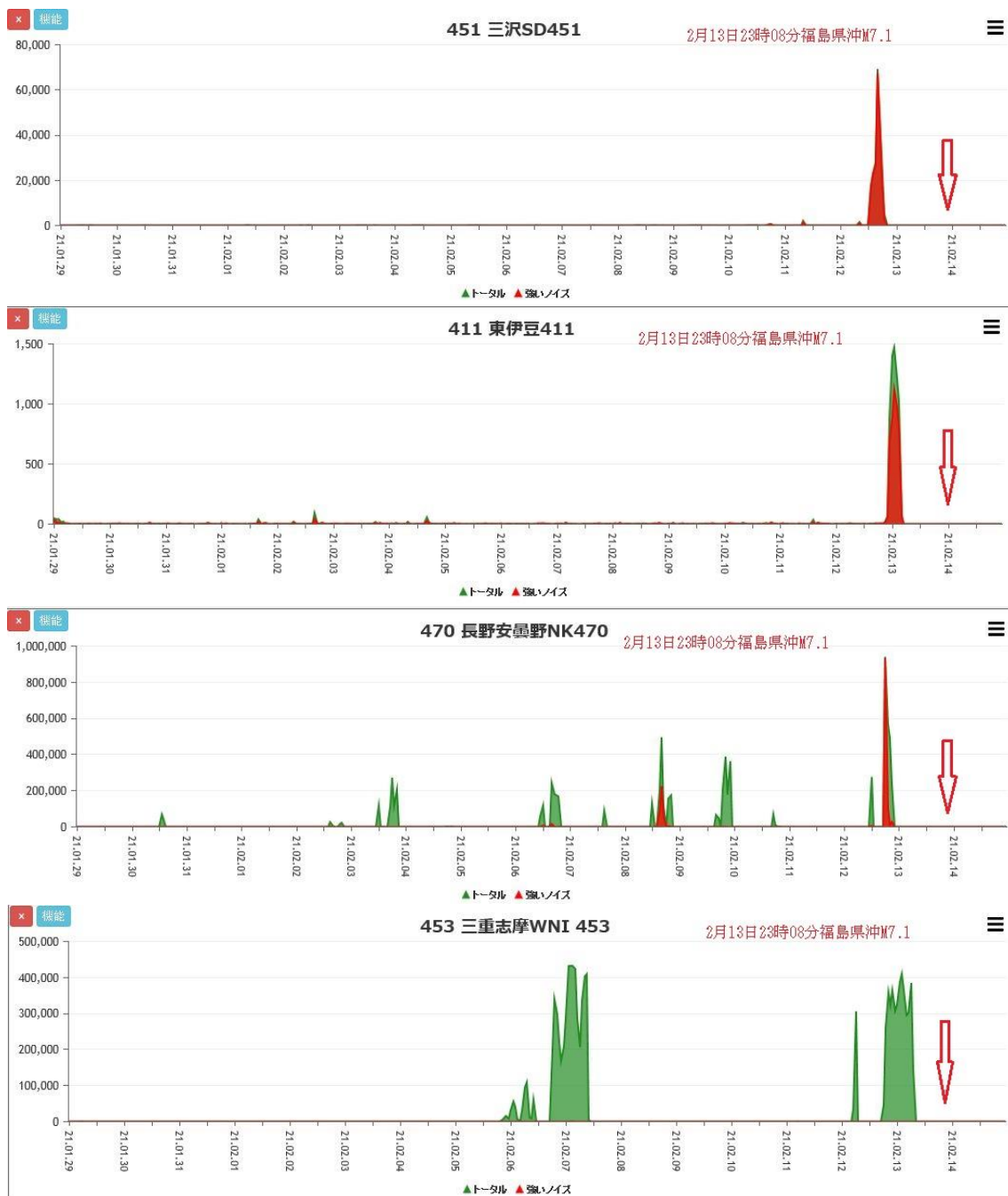
2月18日まで90日間の岩手県一関のデータ



しかし>M6.3 と同規模の地震発生も考えられますとしていますが この一関の 90 日間データだけではせいぜい M5 クラスの規模であって M7 クラスは想定できず、以下の和歌山-A の長期データとの関連を考えます。

2、同期した直前の 1 本立ち

つぎに、三沢（青森）、東伊豆、安曇野、三重志摩の同期した直前の 1 本立ちと地震発生のタイミングについて 1 本立ちデータは前日の 2 月 12 日の午後から夜間に一斉に出て地震は 13 日の 23 時 08 分ごろ発生しています。



3、和歌山-A の長期データの収束との関連

懸案だった和歌山-A の長期データの収束が仮に 2 月 13 日の福島県沖 M7.1 の地震の前兆

の1つであった場合、データの減衰—収束と地震発生のタイミングは次のグラフようになっていきます。これを見ると、約1年の長期に続いたデータがいったん収束してリバウンドしており、そのリバウンドの収束後に地震が発生しています。

和歌山—A 360日間データ



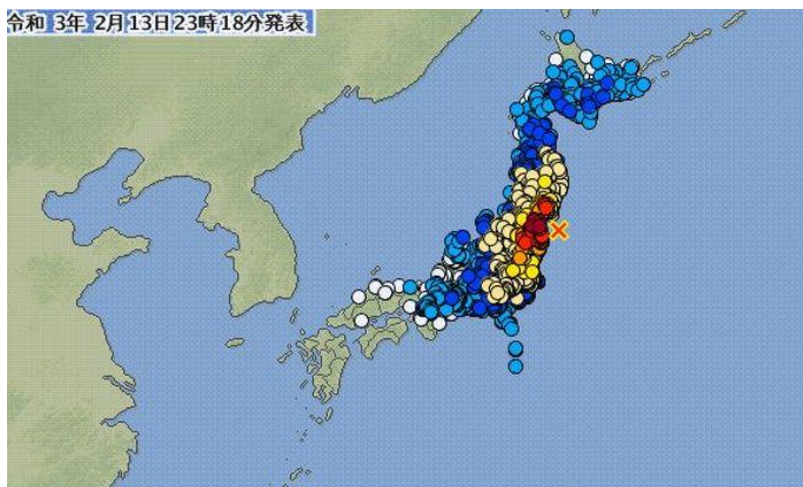
和歌山—A 180日間データ



和歌山—A 15日間データ



2月13日23時08分 福島県沖 M7.1 (7.3)



まとめ>

以上、2月13日（土）福島県沖 M7.1（7.3）の大地震の、電磁波ノイズの前兆としては

- 1、岩手一関の90日間データ
- 2、同期した直前の1本立ち
- 3、和歌山一Aの長期データの収束との関連

が考えられますが 東北地方にもっと多くの観測点があれば その中のいくつかは M7クラスに相当するようなデータを捉えることが出来た可能性があります。

今後も もっと観測点の増強に努力したいと思いますし 皆様のご協力をお願いします。